フリーア、デトロイト、日本

チャールズ・ラング・フリーア・ハウス（ウェイン州立大学メリル=パーマー・スキルマン・インスティテュート）に関する歴史的資料

フリーアと原富太郎の家族、そして客人たち。横浜の本牧三之谷（現在の三溪園）。1909年あるいは1911年。Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution
後列(左から右へ): 野村洋三、原太三郎（親族）、おそらくDr. Snively、 原富太郎、フリーア、村田直吉（原家執事）
前列(左から右へ): おそらく英語家庭教師のゲーツ、野村洋三の娘、原照子（次女）、原春子（長女）、原やす（妻）、原良三郎（次男）、原善一郎（長男)

THE FREER HOUSE

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

6/22/2018

THE FREER HOUSE

フリーア、デトロイト、日本

Exhibit by

William S. Colburn, editor / Catherine Blasio, exhibit design / Meghan Urisko, exhibit coordination,

Hiroko Lancour, research and editing,

The Freer House, Merrill-Palmer Skillman Institute, Wayne State University

with support from

David Hogge, Head of Archives, Freer and Sackler Galleries, Smithsonian Institution

First Edition 2014 | Revised 2018

Japanese translation by Yuriko Kuchiki

朽木ゆり子訳、2018年

of Michigan and Southwestern Ontario

JAPAN CULTURAL DEVELOPMENT

Japanese Business Society of Detrtoit

The Americana Foundation

Fred A. and Barbara M. Erb Family Foundation

THE KRESGE FOUNDATION

MERRILL PALMER SKILLMAN INSTITUTE for Child & Family Development

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

THE FREER HOUSE

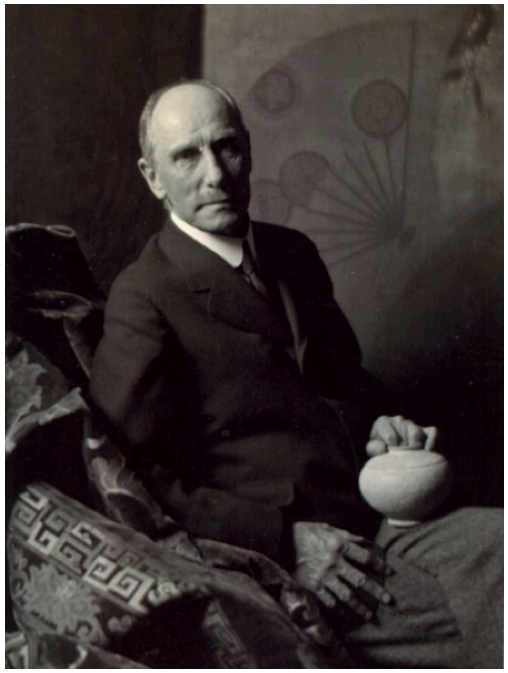
フリーア・ハウスは、卓越した建築と「初代フリーア美術館」としての歴史から、ミシガン州でもっとも重要な歴史的建造物のひとつとされている。今日、フリーア・ハウスの一部はメリル=パーマー・スキルマン・インスティテュート/ WSUの児童家族発達学部のオフィスとして使われているが、大部分は見学者、打ち合わせ、そしてイベントのためのスペースとして機能している。

フリーア・ハウスは柾目材のパネル、備え付けのキャビネットと座席、そして凝った装飾的照明器具と金具などが特徴的だ。そして、デューイング、トライオンやセイヤーなどのアメリカ画家による絵画14点の複製が、元々掛かっていた場所に設置されている。残されたフリーア・ハウス復元の目標としては、歴史ある中庭の活性化や、1906年に作られたホイッスラー・ギャラリーを展示・会議スペースとして復活させ、元馬車置き場を見学者を歓迎する利用案内所に変身させることなどがあげられる。

フリーア・ハウス復元のサポートや会員参加についてのお問い合わせは、電話（米国313.664.2500）あるいはメール（william.colburn@wayne.edu）でどうぞ。

撮影はアレクサンダー・バーティコフ
（ Alexander Vertikoff）

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。



チャールズ・ラング・フリーア 1915年
撮影はエドワード・スタイケン
（Edward Steichen)
George Eastman House,
International Museum of
Photography and Film

フリーア・ハウス 1906年
撮影はC. M. ヘイズ
（C. M. Hayes)
Freer Gallery of Art Archives,
Smithsonian Institution

フリーア美術館　1950年
Library of Congress

チャールズ・ラング・フリーア（1854-1919）

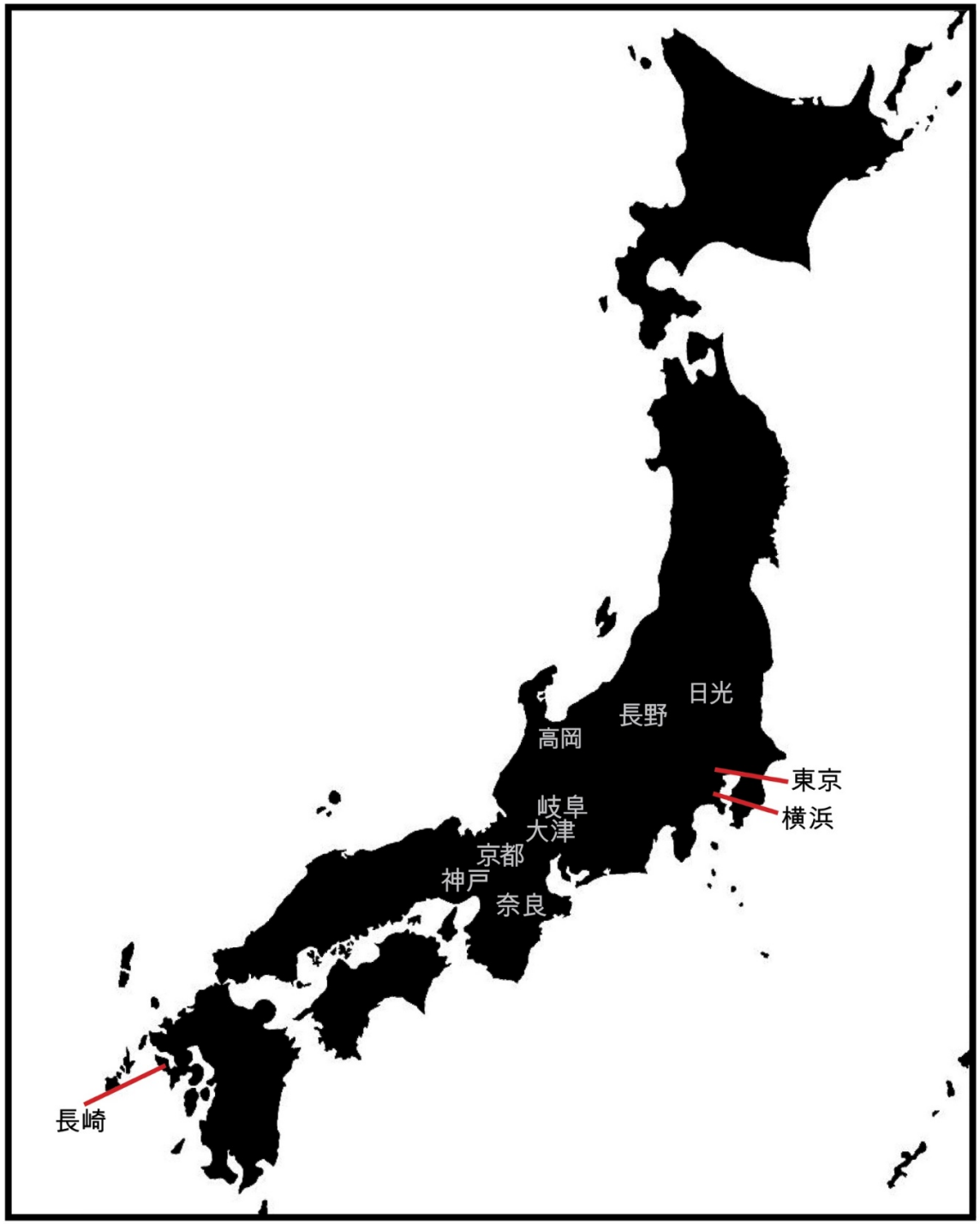
ニューヨーク州キングストンで生まれたフリーアは、1880年にデトロイトに移住し、貨物列車の車両製造会社ペニンシュラ・カー・ワークスをフランク・J・ヘッカーと設立した。1890年、若き実業家兼美術収集家となった彼は、フェリー・アベニューの自宅の設計をウィルソン・エアに依頼した。邸宅は依頼主、建築家、そして芸術家のコラボレーションで、調和、簡素さ、外見上の美しさに関するフリーアの理想を反映したものとなった。

富が保証されると、フリーアは芸術を学ぶことにその人生を費やした。彼は、トマス・デューイング、ドワイト・トライオン、アボット・セイヤーといったアメリカ画家の作品を購入し、ジェームズ・マクニール・ホィッスラーの最大のコレクターとなった。東洋と西洋の美的接触点を探求するようにホィッスラーに励まされ、フリーアは興味をアジアと中東に広げることによって、世界を代表するアジア美術コレクションを作り上げた。

フリーアの邸宅とコレクションを見るために、訪問客が世界各地からデトロイトにやってきた。フリーアはデトロイトの文化活動の中心人物でもあり、ピワビック・ポタリー、デトロイト・ミュージアム・オブ・アーツ（Detroit Institute of Arts の前身）、デトロイト・ソ サエティ・フォー・アーツ・アンド・クラフツ（カレッジ・フォー・クリエイティブ・スタディズの前身 ）、そしてミシガン大学などを積極的にサポートした。1906年、フリーアは自分のコレクションを国に遺贈する契約をスミソニアン協会と交わした。1919年に彼が死ぬと、コレクションはワシントンDCに移され、アメリカ最初の国立美術館であるフリーア美術館が誕生した。1906年から1919年までの間は、この邸宅が初代のフリーア美術館として機能した。

フリーアの邸宅は1921年にメリル=パーマ−・スクールが購入。今日、フリーア・ハウスはデトロイト市、ミシガン州、そして米国国家歴史登録財(National Register of Historic Places) に登録されている。フリーア・ハウスの会員と支援者、そしてメリル=パーマー・スキルマン・インスティテュートとウェイン州立大学はこの国際的に重要な歴史建造物の保存・修復に全力を尽くしている。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。



日本への旅.

フリーアはアジアに４回長期旅行し、明治期の日本を５回訪れた（１８９５年、１９０７年、１９０９年、１９１０-１９１１年）。フリーアは名所を訪れ、また友人、収集家、美術商などに会うために日本の様々な場所に旅したが、この地図にはその代表的な場所が記されている。フリーアは、著名な実業家兼美術収集家である原富太郎や益田孝など、日本を代表する文化人に招かれるという特権をおおいに楽しんだ。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

チャールズ・ラング・フリーア　アメリカの偉大なる日本美術収集家

1887年、フリーアが初めて購入した日本美術品は、絵入りの扇子だった。日本美術により深く興味を持つようになった彼は、1895年から1911年の間に日本を５回訪れ、先駆的なコレクションを形作った。その中には7-17世紀の仏教美術品、琳派と狩野派の両方の重要な作品、本阿弥光悦と俵屋宗達の代表作、17世紀初めから19世紀までの浮世絵、葛飾北斎の肉筆画の世界的コレクションなどが含まれており、そして尾形乾山の陶芸コレクションは日本以外では最大規模のものである。

仏像
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution. F1911.437.

雪でたわんだ草、雪が積もった松
１８世紀
尾形乾山（1663-1743）
江戸時代
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, F1897.31a-b.

ススキ模様の茶碗
１８世紀初期
尾形乾山（1663-1743）
江戸時代
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, F1911.402.

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

原富太郎（1868-1939)
日本美術収集家として著名な原は、帝国蚕糸と横浜興信銀行（横浜銀行の前身）の経営者でもあった。1907年、原とその家族は現在では三渓園という名前で知られている横浜湾を見下ろす三之谷の広大な邸宅にフリーアを滞在させた。ここでフリーアは原の美術コレクションを研究し、原が購入した歴史的建造物が移築された優雅な日本庭園を散歩した。フリーアはこの滞在について、友人のフランク・J・ヘッカーへの手紙に「[日本人の]もてなしの桁外れな例のひとつで、私にはもったいないし、返礼のしようもない」と書いている。フリーアはその後も日本に行く度に三之谷の原家を訪問した。フリーアと原は手紙や美術品の贈りあいを通じて、友人としての関係を保った。

横浜、三之谷で原の家族と一緒のフリーア 1907年
前列はフリーアと生糸業者で美術収集家の原富太郎、その妻やす（フリーアのむかって左）と長女の春子（原の右）。後ろの列は（左から右へ）おそらく原の家族の英語教師であるミス・ゲーツ（Miss Geerts)、横浜の美術商の野村洋三、そして原家執事の村田直吉。
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution.

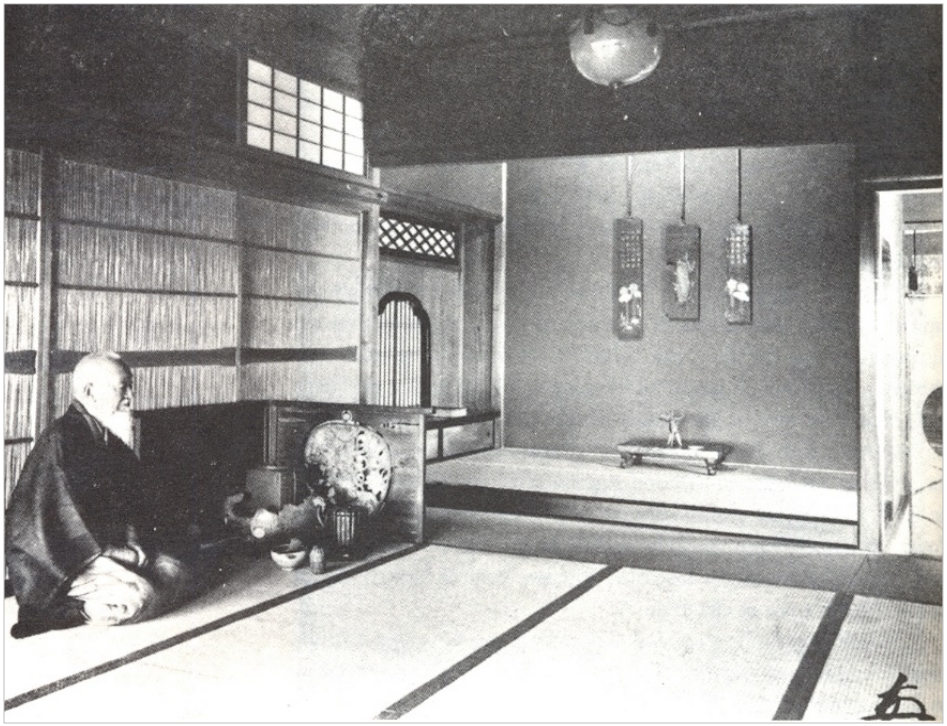
無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

「日本美術品をこれほど注意深く保護・保管しているのだから、日本の収集家はフリーアさんが欲しい物をなんでも手に入れる手助けをしてあげる必要がある」
(野村洋三からフリーアへの1907年11月29日付の手紙の中で、益田が 野村に言った言葉)

Charles Lang Freer Papers, Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

益田孝(1848-1938)

三井物産の初代社長として、カリスマ的で大きな影響力を持っていた益田孝は、熱心な中国・日本美術品収集家で、茶人でもあった。益田が主催する茶会は実業家、美術収集家、美術商たちが美術品を見て語り合うことができるサロンとして機能した。フリーアは1907年の来日時に益田に会った。その年の10月、高峰譲吉博士ともう一人の日本人(おそらく小脇源治郎)とともに益田はデトロイトのフリーア邸を訪れた。最初は収集家ライバル同士だったが、お互いの美意識と実業家としての洞察力への尊敬の念によって、終生の友人となる。益田は、琳派の美術家本阿弥光悦ゆかりの京都の光悦寺に1930年に建てられたフリーア記念碑建立を監督したが、それはフリーアが光悦の重要性を日本国内外で再評価したことによっている。



小田原別邸の茶室にて
Collection of Hisako Hatakeyama

茶碗を持つ益田孝
Collection of Hisako Hatakeyama

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

松木文恭
Descriptive Catalogue of an Important Collection of Japanese and Chinese Pottery, 1898

野村洋三、妻のみち。1890年、ふたりの結婚式の出席者とサムライ商会の庭で
Nomura Family collection

執行弘道の肖像写真
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

松木文恭（1867-1940）は、長野県の商家で日用品を作る家に生まれた。東京の仏教学校で学んだ松木は21歳でマサチューセッツ州のセーラムへ移住し、やがて日本物産品の輸入商となる。そして1895年にはボストンに日本美術品の店を開いた。フリーアは松木の重要な顧客だったので、松木は年に一度のアジアへの仕入れ旅行の際にフリーアの自宅を訪れた。

野村洋三（1870－1965）は著名な美術商で、横浜にサムライ商会を開業し、フリーアは彼のもっとも重要な顧客の一人だった。野村は後にホテルニューグランドの会長を務めた

執行弘道(1853–1927)は武士の家系に生まれたが、高級日本工芸品の輸入業社で政府に保護された起立工商会社のニューヨーク支店の責任者となった。日本の書籍、版画、そして絵画の専門家だった執行は、フリーアのコレクションに江戸期の絵画をもたらし、フリーアの友人としてデトロイトに滞在した。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

光悦の墓の横に座る牛窪第二a郎（京都、光悦寺にて。1926年頃）
Life of Kōyetsu by D. J. R. Ushikubo
Kyoto, Japan, 1926

山中定次郎 1896年
『山中定次郎伝』（非売品）からの転載

山中商会ニューヨーク五番街店正面（1925年頃）
朽木ゆり子『ハウス・オブ・ヤマナカ東洋の至宝を欧米に売った美術商』(新潮社、2011年)

フリーア・ハウスの庭園に置かれていた灯籠。現在はフリーア美術館の外に設置さaれている
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution

山中商会 日本やアジア美術品を扱った著名な国際的美術商で、ニューヨーク支店は**山中定次郎 (1865-1936)**によって1894年に設立された。それ以外に同社は、大阪、京都、ロンドン、ボストン、シカゴにショールームがあった。フリーアは山中の上得意であり、定次郎はデトロイトのフリーア邸を頻繁に訪れた。フリーアは定次郎からの1904年のクリスマス・ギフトである御影石の灯籠を邸宅の中庭に設置した。山中商会のニューヨーク支店長だった**牛窪第二郎**もフリーア邸を訪れた。1926年、牛窪は琳派の芸術家、本阿弥光悦に関する英語の本を、「アメリカ、デトロイトの故チャールズ・L・フリーア氏へ、もっとも忠実な友より」という献辞とともに出版している。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

アーネスト・フェノロサ（1853–1908）フェノロサは日本美術と文化に関する傑出したアメリカ人学者であり、東京帝国大学で1878年から1888年まで教鞭を取った。この間に彼は明治天皇から旭日章と瑞宝章を授与されている。フェノロサはボストン美術館の東洋美術部の学芸員になるためアメリカに帰国。1900年、彼はフリーアの日本とアジア美術のコレクションに対して積極的にアドバイスを与えるようになり、デトロイトの邸宅を定期的に訪れた。フリ-アは、滋賀県大津の三井寺法明院に建てられたフェノロサの墓の費用の一部を寄進し、1909年に行われた法要に出席した。

フェノロサ墓　大津市三井寺法明院 1909年
Freer Gallery of Art Archives,
Smithsonian Institution

1909年、法明院で行われたフェノロサの法要の出席者たち。フリーアは前列の一番右。
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

アーネスト・フェノロサ 1890年
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

1907年頃の野村みち
写真はすべて『ある明治女性の世界一周日記–日本初の海外団体旅行』（神奈川新聞社 2009年）より

フリーア邸は「外観は純然たる西洋風ですが」インテリアは彼の東洋趣味を取り入れており「西洋風の派手な装飾はありません。しかし質素で平淡の中に、上品で風流な味わいが自然とあふれ出ています…」夕食後、ピーコック・ルーム とその他の「さまざまな美術品を見せていただきましたが、とにかく数が多く、まったく終わりそうにありません。夜も更けてきて目も疲れてまいりましたので、翌日続きを見せていただくことにして寝室に案内していただきました。日本を離れてからこの晩ほど気兼ねなく熟睡したことはありませんでした。」（野村みち1908年）

が最も急務です。水彩画に関しては多少見るべきものはありますが、これも全体としてはまだ幾多の歳月が必要とされましょう」

まことによく日本美術界の現状を洞察した、まさに知言です。

次に陳列庫の中の「ピーコックルーム」に参りました。

これはさるイギリス貴族の歴史ある邸宅の一部であり、売りに出されたときすぐさま買い取ったのがフリーア氏でした。ところが代金の支払いも済んだ後になって、こんな貴重なものを外国人に売却するなど大英帝国の不面目だという議論が沸騰し、あらゆるところから買い戻しの圧力が働きました。しかし、時すでに遅し。もはやどうにもできなかったのです。そうしたいきさつで入手したものを往時の姿に再構築したのが、このピーコックルームです。

天井は、幾多の小穹窿状から成る格天井のようで、ところどころに電灯を吊るし、一面に描かれた孔雀を照らしています。

壁は一方に一つがいの孔雀を描き、残りの三方には棚を設け美術品を陳列してあります。この配列がいかに整然としているか、構造がいかに壮麗か、美術品がいかに古雅でありどれほど遠い時代のものか、とてもとても書ききれるものではございい

フリーア邸のピーコックルーム

91 華米何舳の巻

90

野村みち(1875–1960) は、フリーアの横浜の美術商、野村洋三の妻。1908年、みちははじめて世界一周旅行をした日本女性のひとりとなった。フリーアは彼女の旅路を知ると、デトロイトの自宅に招待した。野村夫人はデトロイトを訪れ、フリーア邸の客となり、彼の美術コレクションやピーコック・ルームを見たことを回想録『ある明治女性の世界一周日記—日本初の海外団体旅行』（彼女の死後、2009年に出版された）に書き綴っている。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

原善一郎 (1892-1937) 原富太郎の長男、善一郎は早稲田大学を卒業後、父の生糸企業と銀行で重役として働いた。彼は美術と文学のパトロンだった。1914年、まだ若者だった善一郎は一年間アメリカに留学したが、その間にフリーアの自宅を訪問した。原富太郎は、息子へのもてなしに対する感謝の気持ち伝えるためにフリーアに手紙を書き送った。

「善一郎は私に、あなたの自宅への訪問に関して非常に具体的な手紙を書いてきました。・・・『あなたの家は簡素で愛に満ちていて、それは芸術と人間性のエッセンスなのだろうと思います』。アメリカで様々なものを見た中であなたの家が一番好きだと彼は言います。・・・あなたの[家]は色彩の使い方が完璧なまでに成功していて・・・夢のような気品に溢れ、しかもごてごてしたところがないのだろうと私は理解しています。彼はさらに光悦、宗達、乾山といった多くの価値ある作品を見たと言います。彼にとっては、あなたのコレクションがそれほどまでに規模が大きく、特にそういった名前も作品も不朽である日本の作家の、人もうらやむ作品を持っていることに、大変驚いたようです。」（原富太郎からフリーアへの手紙 1914年7月25日）

フリーア・ハウス 1906年
撮影は C. M. Hayes.
Freer Gallery of Art Archives,
Smithsonian Institution.

図6　原 善一郎・壽枝子結婚式（臨春閣にて／大正6年）

原善一郎の結婚記念写真　1917年

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

三浦久次郎と英介、Sezo Hatashita（前列右）1917年頃
Collection of the Miura family.

フリーア・ハウスでSezo Hatashitaとウォリング一家　1919年頃
Collection of Thomas W. Brunk, Ph.D..

フリーア・ハウスのピクチャー（ホィッスラー）・ギャラリーでの三浦久次郎・英介とジョセフ・スティーブンス・ウォリング。ウォリングはフリーア・ハウスの管理人兼学芸員。1917年頃
Collection of the Miura family.

フリーアと日本美術の修復　フリーアはデトロイトの邸宅の作品のために何人かの日本人修復家を雇った。**Sezo Hatashita**は山中商会ボストン支店の社員だったが、フリーアは彼を日本とアジア美術コレクションの修復家として雇った。1916年から1917年にかけて、フリーアはデトロイトの自宅で京都の有名な修復家の家系出身の**三浦久次郎と英介**兄弟を雇い、ワシントンD.C.のフリーア美術館での 展示に備え、日本と中国美術品の修復を行った。フリーア・ハウスでの三浦兄弟が写っているこの写真は、彼らのアメリカ滞在のスクラップブックに入っていたものである。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

「[フリーアは]もっと多くの人々、もっと多くのアメリカ人がアジア美術の美しさと重要性を認めてほしいと願うようになった。この目的のために、彼は客を歓待し、コレクションを公開し、美術館への助言と助力をおしまなかった…
欧米にアジア美術を鑑賞したり理解するものが男女を問わず一握しかいなかった時代に、学生に自宅を開放し美術史家、批評家、そして学芸員を養成するために遺産を残そうと決意したのである。」
ウォレン・I. コーエン著『アメリカが見た東アジア美術—国際関係の一研究』より(川嶌一穂訳　スカイドア 1999年)

フリーア美術館の日本ギャラリーは、日本美術とそれを生み出した文化を楽しんで理解するように作られている
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution.

フリーアの残したものフリーアは米日間の交流と理解の拡大をめざし、ニューヨークのジャパン・ソサエティ(日米協会)の執行委員会のメンバーとなる。彼は環太平洋地域が発展することを想定した。1907から1908年、彼はデトロイトでアジアの出来事に関する英文の先駆的定期刊行物 *Pacific Era (太平洋時代)* を出版した。

西欧における日本美術と文化に対する研究と学問活動を啓発するために、フリーアはオーバリンやスミスを含めた諸大学と美術館に作品を贈呈した。ミシガン大学では、フリーアは専門家と相談して自分のコレクションから美術品を貸し出し、1910年には Alumni Memorial Hall (現在の University of Michigan Museum of Art)で米日の美術をはじめて一緒に展示する展覧会を開催した。また *Ars Orientalis* という学術誌を出版し、ミシガン大学の学生がフリーア美術館で研究するための奨学金制度も設立したが、両方とも現在も続いている。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

「フリーア氏は本当の意味で光悦を世界に紹介したし、また光悦の評価を高めたことが、彼が日本にしてくれた最大の貢献といっても誇張ではないだろう。」
（益田孝 1930年5月9日、光悦寺でのフリーア記念碑除幕式で）

光悦寺で行われたフリーア記念碑除幕式での京都市長（京都、1930年5月1日）.
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

京都、光悦寺のフリーア記念碑除幕式でのウィリアム・R・キャッスルJr. 駐日米国大使。（京都、1930年5月1日）
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

光悦寺のチャールズ・ラング・フリーア記念碑（京都、1930年5月1日）
京都市長、そして益田孝、山中定次郎、駐日米国大使ウィリアム・R・キャッスルJr.を含めた賓客が参列して、フリーア記念碑の除幕式が行われた。益田が光悦寺を選んだのは、フリーアが琳派美術家、本阿弥光悦を高く評価していた事に対して敬意を表するためだ。フリーアの記念碑の荒削りの石碑の前には、東と西を表すものとして抹茶とシャンパンが献じられた。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

光悦寺の床の間に掛けられたフリーアの掛軸写真（京都、1930年5月1日）
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution.

デトロイトのフリーア・ハウス、ワシントンD.C.のフリーア美術館、そして京都、光悦寺のフリーア記念碑は、日本やアジアの美術と文化に対する西欧の理解と評価を促進させたフリーアの先駆的な洞察力とその成果を物語る象徴的な史跡である。彼の残した豊かな遺産は、21世紀にも輝きを失わないだろう。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

チャールズ・フリーアを記念するために作られた光悦寺の祭壇
(京都、1930年5月1日)
Freer Gallery of Art Archives, Smithsonian Institution

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。

THE FREER HOUSE

フリーア・ハウス復元のサポートや会員参加についてのお問い合わせは電話（米国313.664.2500）
あるいはメール（william.colburn@wayne.edu）でどうぞ。

無断使用・転載を禁ず。許可はThe Freer House, Merrill Palmer Skillman Institute, Wayne State University まで。